vinetur

英国の飲食・接客業、水曜の売上が31％増加

バー、クラブ、ラウンジが伸びをけん引。35歳未満の47％が水曜の夜の外出を増やしたと回答

2026年11月11日（水）



決済プラットフォームのSquareが11月11日（水）に発表したデータによると、英国の飲食・接客業では水曜日の営業が重要性を増している。若年層の間で、外出する夜が従来の週末から移りつつあるという。

Squareによると、飲食・接客業全体の水曜の売上は2021年比で31％増加した。バー、クラブ、ラウンジの伸びが最も大きく、同期間の水曜売上は40％増となった。外出する曜日に顕著な変化が生じていることを示している。

同社はまた、飲食・接客業の経営幹部1,000人を対象とした別の調査で、44％が水曜夜の売上増を

実感していたと明らかにした。水曜の午後6時から8時までの売上は2年前の水準を36％上回り、同じ時間帯の木曜の売上は47％増加した。

この調査結果は、多くの事業者にとって平日の営業がもはや二次的な機会ではないことを示唆している。Squareによると、35歳未満の47％が、2年前より水曜に外出する頻度が増えたと回答した。回答者全体では、38％が混雑の少なさを理由に平日の交流に前向きになったと答え、25％はお気に入りのバーやレストランで予約を取ったり、予定を立てたりしやすいと回答した。

Square UKのエグゼクティブディレクター、Robert White氏は、この変化には働き方と消費者の好みの双方の変化が表れているようだと述べた。パンデミック後に広がったハイブリッド勤務が理由の一つと考えられる一方、週末の混雑した夜ではなく、より静かでくつろげる夜の外出を選ぶ客もいるという。

この変化はすでに事業者の運営にも影響している。Squareによると、調査対象となった飲食・接客業者の56％が、平日の来店客を対象とした販促やイベントを始めている。さらに41％は、平日の集客を増やすためにメニューを調整または拡充したと回答した。

この動きは酒類業界にも広く影響する可能性がある。水曜や木曜にパブ、バー、レストランを訪れる客が増えれば、事業者は週を通じてより均等に広がる需要に合わせ、ビール、ワイン、蒸留酒の発注量や人員配置、納品スケジュールを見直す必要が出てくるかもしれない。

水曜の売上が最も大きく伸びた地域はシェフィールドで、Squareによると2021年比で119％増加した。ニューカッスルが62％増で続き、リバプールとカーディフはいずれも43％増だった。こうした数字は、変化がロンドンや国内の一地域に限らず、複数の主要都市市場で起きていることを示している。

パブのオーナーなど飲食・接客業者にとって、この傾向は従来の金曜・土曜中心の営業モデルに対する圧力を和らげる可能性がある。混雑を避けて外出したい客を取り込もうとする事業者の間では、平日の販促やライブイベント、食事・飲料の個別提案が一段と重要になりそうだ。かつては週末の客足に大きく依存していた店舗にとって、水曜日はより重要な売上日となりつつある。